

② ^{なすのがはら}那須野原扇状地と那須高原

那須野原(那須野ヶ原)は、那珂川と^{ほうきがわ}箒川に挟まれた地域で、那珂川と箒川、^{きびがわ}蛇尾川、熊川が上流部の河谷を侵食して流した土砂が緩傾斜に堆積して形成された東西 20km、南北 30km、面積 4 万 ha の木の葉形の大規模な複合扇状地である。那須野原の背後には、標高 1,900m を超える那須火山群がそびえ、その山麓には、広大な雑木林や水田、畑、牧草地などが見られる那須高原が広がっている。また、那珂川と大小の支川が流れ、湧水地や湿地が点在している。

a. 半自然草原

半自然草原とは、草原環境を春先の火入れや秋の採草など農家の営みによって長く維持管理されているものを言い、そこは耕作牧野（牧草が耕作されている草地）より優れた自然環境を持っている。最近では、リゾート開発や施肥牧野（放牧や採草に利用するため施肥されている草地）への転換などでその多くが失われ続けている。那須町高久丙にある草原では、ザゼンソウ、ハルリンドウ、クララ、タムラソウ、オミナエシ、ワレモコウなどが生育し、春には絶滅危惧種となったサクラソウの群落を見るために訪れる人もいる。

那須高原にある半自然草原では、チャマダラセセリ、ホシチャバネセセリ、アサカミキリ、ヒメビロウドカミキリ、アオバホソハムシ、ニセコヤツボシツツハムシ、ブチヒゲツノヘリカメムシ、ヒメカメムシなどの分布上希少で重要なチョウ類、甲虫類、カメムシ類の昆虫が生息する。



新緑の那須高原（那須町 5月）



ザゼンソウ（サトイモ科）
（写真：榎日水コン）

図 4-12 那須高原の半自然草原



ハルリンドウ (リンドウ科)

(写真：榎日水コン)



サクラソウ (サクラソウ科)

(写真：榎日水コン)



アサカミキリ (カミキリムシ科)

(写真：栃木県立博物館)



左 雄 / 右 雌

ニセコヤツボシツツハムシ (ハムシ科)

(写真：栃木県立博物館)



ホシチャバネセセリ (セセリチョウ科)

(写真：宮本 龍夫氏)

図 4-13 那須高原の半自然草地の生物